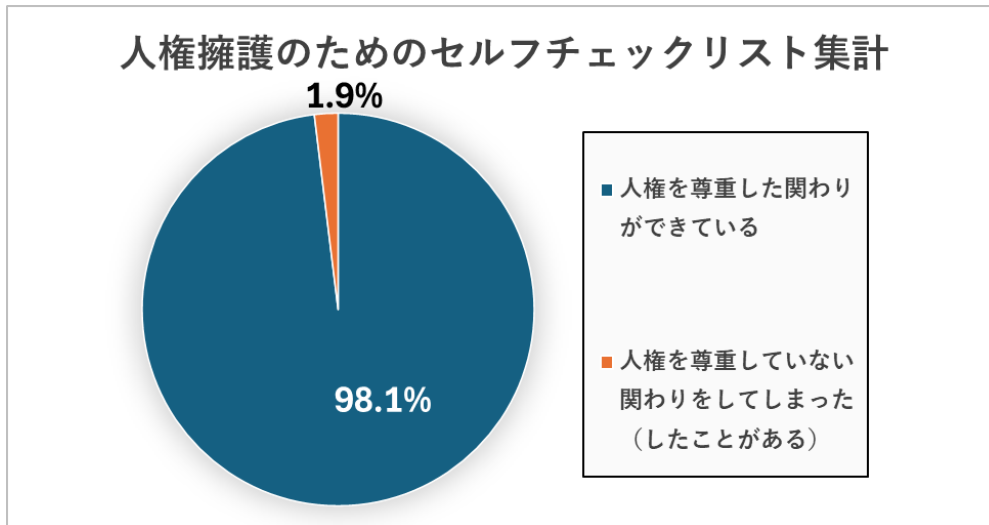


東保育所 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和7年6月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して98.1%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.9%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。

上記の項目につきましては、他の子の対応などが重なった時に「今〇〇だから待っててね。」と伝える状況があります。しっかり説明をした上で、「〇〇が終わったら聞くね。」など、年齢に合わせて具体的に伝えるとともに、「待っててくれてありがとう。」と約束したことは守るという姿勢が大切であることを職員間で確認しました。

自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。

上記の項目につきましては、直ぐにトイレへ行くことが難しい散歩の時や、給食、午睡前など活動の内容を考え、トイレを促している状況があります。子どもたちへ理由を伝え、強制ではなく、子どもの気持ちを尊重していくこと、またトイレへ行くタイミングが一人ひとり異なるので、様子を見ながら子どもたちに寄り添った対応をしていくことを再度職員間で確認しました。

少食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。

上記の項目につきましては、子どもに食べたい量を聞きながら配膳する状況があります。残すよりも完食した満足感を得ることで、子どもの自信につながるのではないかと、反面、皆と同じに盛り付けているものを配膳することで、食べてみようかなという気持ちにもなるのではないかなどを話しました。年齢や子どもの状況に応じて、丁寧に対応し、そして何よりも楽しく食べることを大切にしていくことを職員間で確認しました。